

「後生の一大事」

最近、よく耳にするお話で、30代・40代の方が突然死で亡くなることがあります。たとえば、朝、目覚めることがなくそのままふとんの中で亡くなっていられたり、暖かい部屋から寒い場所に出て、まもなく倒れられたりしています。本人は一瞬にして生から死ということですので、つらくないようですが、残された家族の方のお気持ちを察すると、とても胸が痛みます。

さて、昨年2月に、私の出身中学校の同窓生が2人も亡くなりました。どちらも男性で54歳でした。Tさんは病気で、Yさんは突然死とのことで、どちらの人も会社の第一線で活躍されていて、すこぶる健康そうなお二人でありました。

その年の5月に、同窓会開催にあたり私の寺で追悼法要を行い、後に会食の席で同窓生の一人で医者であるJさんが、「私たちの医学の世界でも、どうしても治すことが出来ない病気があります。あなたのような宗教者がどうしてもこれからは必要です」というようなことを私に話しかけられました。僧籍を持つ身として、病気を治すことは出来ないが、その人自身を救うお手伝いは出来るかもしれません。

実は2人の死から、我々残された同窓生に大きなメッセージをいただいている訳であります。あなたは今をどう生きていますか？ 真にいのちをいただいていますか？ と問われているのであります。だれも、他人事と思っていなかったと思いますが、時がたつにつれ、忘れてしまい、いつもの私に戻ってしまいます。真宗の教えは、今こそ、亡き人の死をみつめ、あなたの一大事に目覚めなさいとよびかけられています。亡き人のいのちは、今私のいのちとなってここに生きています。